

# 笠岡市教育委員会 3 月定例会 会議録

|                     |                                                                                                                                                                      |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 開 会 年 月 日         | 令和 6 年 3 月 1 5 日（金） 午後 6 時 3 0 分                                                                                                                                     |
| 2 場 所               | 笠岡市教育委員会会議室                                                                                                                                                          |
| 3 出席委員等の<br>氏名      | 教育長 岡田 達也<br>委員 藤谷 幸弘 山下 敬広 東山 琴子 西崎 倫子                                                                                                                              |
| 4 欠席委員の氏名           | なし                                                                                                                                                                   |
| 5 会議に出席した<br>者の職・氏名 | 教育部長 森山 一成<br>教育総務課長 松尾 千鶴<br>学校教育課長 榎野 英一<br>生涯学習課長 石井 善子<br>スポーツ推進課長 土屋 武之<br>給食センター所長 宮 恭子<br>学校教育課参事 後藤 嘉孝<br>学校教育課課長補佐 得松 学<br>生涯学習課参事 安東 康宏<br>教育総務課課長補佐 藤代 幸弘 |
| 6 付議案件及び<br>議決状況    | 議案第 9 号 技能労務職員の給与に関する規程の一部を改正する規程について<br><br>協議報告事項 別紙のとおり                                                                                                           |
| 7 会議の状況             | 別紙のとおり                                                                                                                                                               |
| 8 閉会年月日             | 令和 6 年 3 月 1 5 日（金） 午後 8 時 4 7 分                                                                                                                                     |

議事録署名委員 教育委員 山 下 敬 広

教育委員 西 崎 倫 子

会議録を調製した職員 松 尾 千 鶴

## 会 議 の 状 況

### 1 開 会 （岡田教育長）

### 2 前回議事録（臨時会）の報告 （藤代課長補佐）

令和6年3月臨時会

令和6年3月12日（金）6時1分から、教育委員会教育長室で開催

出席者は、藤谷委員，東山委員，西崎委員

審議案件は3議案

- ・議案第6号 小中学校長等の人事異動の内申について
- ・議案第7号 幼稚園長等の人事異動について
- ・議案第8号 感謝状の贈呈について

閉会は、同日の午後6時53分

### 3 教育長の報告（挨拶）

改めまして、こんばんは。今週は教育委員の皆さんにも卒業式に参加していただきましたが、11日（月）が中学校の卒業式、14日（木）が幼稚園の卒業式、そして来週の19日（火）が小学校の卒業式となります。

中学校の卒業式は、中学生の受験の一般入試の発表が来週の月曜日という中で行われていました。不登校の子ども達も市内に何名かいますが、各学校の状況を聞いたら、当日どうにか参加できたお子さんと、当日参加できなかったけれども、式が終わった後に校長室とか別室で、卒業証書を校長先生から渡された子どもさん、それからリモートで卒業式に参加したお子さんがいたそうです。どの学校においても、そういう色々な子ども達に対応した手立てをとっていただいているということで、本当にありがたく思いました。私は笠岡東中学校の卒業式に参加したのですが、人数も多かったのですけれども、とても立派な卒業式でした。在校生もそうですが、卒業生も本当に成長したなということを思わせる態度でした。送辞・答辞も素晴らしかったのですが、私はそこに参加していた子ども達の表情が一番感動しました。多分これまで色々なことがあって、先生方も悩みながら、子ども達自身も色々なことを思いながら3年間生活したのでしょうか、その時の表情はみんな前を向いて、凛としていて、下を向いていないのです。とても感動しました。東中学校は不登校のお子さんもいるため、呼名はするのですが、「はい」と言って立つことはされませんでした。でも、会釈をして、「3年生A組何人」と言ったら大きい声で「はい」と返事して、全員が立ってお辞儀をする、その態度が本当に立派でした。そんなに中学校は練習しないと聞いていたので、練習しなくてもできるというのはすごい成長だなと思って、感心しました。そこにはやはり発達段階とか、中学生としての、自分で考えて行動し、色々なも

のを変えていくというところが、教育の中にあったのかなと思っています。

幼稚園は、私は笠岡幼稚園の卒業式に参加しました。入学前の年長さんが、とても立派でした。3歳の子と比べて、3年間の成長を目の当たりにし、3年間はすごい意味があるなと思いました。1日1日をちゃんとしていくことがこの3年間に繋がったのだということと、その1日の中の長い時間を学校で過ごしているということは、学校の教育って本当に大事で、子ども達を良くも悪くも変えてしまうのだということを改めて実感し、気持ちが引き締まる思いでした。幼稚園も朝におうちの方が連れて来て、下校する間の時間というのがすごく有意義であったから、あの姿があったのだらうと思いました。子どもが呼びかけをするのですが、よく覚えているのです。笠岡幼稚園には園歌があるのですが、それを大きな声ではっきりと歌うのです。3歳児も一緒に歌うので、すごいなと思って、歌う前は3歳児は足をぶらぶらさせたり、よそ見したり、手遊びをしたりして、並んでいる先生が「しちゃ駄目よ」と目で訴えているのですが、40分ぐらい経つと飽きます。でも、歌う時だけ大きく口を開けて歌うので、子どもはすごいなと思って、その時はやらなければいけないことをちゃんとできる力が身に付いているのだと思いました。今週は3歳から15歳ぐらいまでの時間のすごさを感じて、教育委員の皆様は、参加された方はそうだと思うのですが、身が引き締まるというか、本当に何をしなければいけないのかということ、学校の先生達と一緒にってしっかりと考えて、教育行政にあたらないうけないということ、をすごく思いました。当たり前のことなのですが、自分を反省する機会を与えていただいたのがすごく嬉しかったです。

今は色々な子ども達が新しい門出に向かっていますが、来週の月曜日が県立高校の発表だということで、色々なことがあると思うのですが、学校は最後の最後まで、子ども達の夢や希望を叶えるために頑張ってくれると思います。今現在、特別推薦というのが多いので、決まっている子も結構います。そういう一人一人の子の思いをちゃんと把握して、今は学校現場の先生方が一緒になってサポートしてくれているということを感じました。どういう結果になるか分かりませんが、子ども達が前を向いて歩けるように、各学校において、どういう状況になろうともサポートしてくれるということを信じています。また状況が分かった時に、年度が変わって言えることがあったら、またお伝えしようと思います。卒業式が無事に終わったのが非常に嬉しかったです。

小学校は19日（火）に一応卒業式が完了して、最終的には、小中学校については3月25日が修了式です。それで今年は始業式が、4月8日になるので。土日があって、小学校は多分、4月9日の翌日が入学式でしたか。中学校はその次の日ぐらいですかね。2週間ぐらいしたら新しい年度が始まるので、また教育委員の皆様にもいろいろお世話になると思うので、よろしくお願いします。併せて、今日の教育委員会は山下委員が最後になりますので、本当にありがとうございました。この後またお話を

させていただこうと思います。

#### 4 議事録署名人の指名（山下委員，西崎委員）

#### 5 議 事

##### 議案第 9 号 技能労務職員の給与に関する規程の一部を改正する規程について

（教育総務課）

松尾課長        資料議 9－3 の新旧対照表をご覧ください。このたびの改正内容ですが、笠岡市教育委員会の任命する技能労務職員の給与の額及び給与の支給については、笠岡市一般職の職員の給与に関する条例第 19 条の規定に基づいており、笠岡市が制定する技能労務職員の給与に関する規定を準用しています。このたび、笠岡市が令和 6 年 4 月 1 日以降の採用者に適用する技能労務職員の給与に関する規定を新たに制定したことに伴い、笠岡市教育委員会の任命する令和 6 年 4 月 1 日以降に採用された技能労務職員の給与基準等についても同様に、笠岡市が制定した規定を準用するものです。なお、今回の改正は令和 6 年 4 月 1 日からの施行となります。

岡田教育長        それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員        （なし）

岡田教育長        それでは、ご承認いただけますか。

教育委員        （異議なし）

#### 6 協議・報告

##### （1）令和 6 年 3 月笠岡市議会定例会質問回答について（教育部長）

森山部長        資料協 1－1，代表質問で、改革 21 の藤井義明議員は 1 件でした。まずファジアーノ岡山の練習場整備についてです。こちらについては、ファジアーノ岡山が、笠岡市教育委員会に県営の工業用地の中にある萩原工業の土地を使って、そこにサッカーの練習場と、それからフットサル場の建設をお願いしたいと、それに市のふるさと納税を活用して整備をさせてもらえないかという話が昨年終り頃にありました。ふるさと納税を活用するということだったので、急いで、市として、教育委員会として段取りをしていたのですが、最終的には萩原工業とファジアーノの話として、県の方も前向きな話と聞いていたのですけれども、萩原工業の土地が県営の工業用地の中にあるということで、最終的なゴーサインが県の方から出ませんでした。ファジアーノ岡山の方から練習場、それから市民の方にも使ってもらいたいということで整備予定だった計画を白紙にさせてくださいという話が 2 月になって出てきました。最終的に笠岡市教育委員会は 12

月の補正予算で、債務負担行為を1億7,000万円設定して、補助金として出すということを決めていたのですが、この予算を廃止するという話をさせていただきました。今の時点では、萩原工業は元々人工芝の試験場として整備して、そこをファジアーノ岡山、それから市民にも使ってもらいたいということだったのですが、ファジアーノ岡山が運営するような話等を、県の方が認めなかったので、萩原工業が今は独自で試験場を整備して、周囲には使ってもらうような計画を今の時点では持っているというような状況です。それから、ファジアーノ岡山はもう関わらないという話になっているといった説明をさせていただきました。それと、ここに挙がっていないのですが、藤井議員から出た質問で、寺間遊水池の太陽光パネルを設置するという話が今出ている関係で、野鳥の会笠岡支部がバードウォッチングを3月にするという話があって、生涯学習課に笠岡市教育委員会の後援申請があり、「良いことですね」ということで後援を承認していました。しかし、寺間の遊水池において、今は市へ太陽光を設置したいと思っている業者が、関係機関との協議で事業実施は可能だと考えているようです。あそこの寺間遊水池というのは、干拓の土地の水が全部そこへ集まる、それから茂平からも一部流れてきている、そこからポンプアップして、海へ流しているというような遊水池があるのです。そこは国の農林水産省の管理地で、市が代わりにそこを管理しているような状況なので、持ち主の農林水産省に話をしたら、全国では他にも干拓地があり、その中の遊水地にフロート式の太陽光パネルをつけている所もあるので、笠岡市が判断してやってくれたら良いという話が出てきました。今の時点では、業者に対して、そこは本当に使える土地なのかどうか、パネルが飛んでしまわないようにアンカーを打って、安全にできるのかどうかというようなことは、業者が判断して、ちゃんと色々調査したりした結果を出してもらう、それと、地元にも説明会をして、ちゃんと理解をしてもらうといったことが進まない、笠岡市はゴーサインを出さないということを、笠岡市の産業部が、業者の方へ伝えています。業者の方は1社だったのが2社になって、最終的には、プロポーザルで、笠岡市にとって、それから地元にとってもより良い提案をしてくれる所に、市としては決めたいと考えているようです。野鳥も希少で貴重な野鳥がいるのですが、パネル設置面積を半分にして半分はそのまま残すという共生を、そういうやり方を、笠岡市内のため池は全部そうしてきています。独自の基準を作っているのですが、そういった形でできないだろうかという考えを、今は地元の神島の自治会にも投げかけています。そういった意思をこれから決めていく状況にあるところなので、教育委員会の後援を2月5日に承認をして、10

日後の2月16日に承認を取り消しました。そういった情報が野鳥の会から藤井議員さんの方に伝わっていたので、後援をしたことに対して、それをどう考えていたのか等、後援を取り消しにした判断内容を聞かれました。地元の神島協議会は今後への考えを持っていて、これから合意形成をしていく中で、そこに教育委員会が介入していく、片方を応援するということは今はできないので、少し遠慮したいという思いを持っています。市議会の中でも、議員と市長の考えがぶつかり合ったことが今までもあるので、選挙が終わるまではそういう政治的な意味でも中立を図りたいので、承認を取り消したという回答をしています。藤井議員の方からは色々な考えを持って質問されましたが、教育委員会の考えはお伝えしています。以上は、質問の中で出てきました。

続いて、資料協1-4から協1-12まで、代表質問で、讃志会の大山議員ですが、教育委員会に対してではなくて市長に対して、子育て・福祉の充実、教育改革について、市長がやってきた8年間の現状と、今後についての考えを求めるような質問がありました。まず、協1-4では、子育て世帯の経済的な負担を支えることについてどう考えているのかという質問がありました。教育委員会の分野としては、広く市民の皆様、子どもを持っておられる家庭の方に対しては、奨学金制度の説明等をしています。一部の方に対してというのもあるのですが、生活困窮されている方等に対しての支援制度などもあったりするのですけれども、広くという意味では、この奨学金を皆さんに声をかけて、可能性があればどうぞどんどん応募してくださいと、それから笠岡信用組合の民間のものもあります。給付型の奨学金というものは、県内では岡山、倉敷、笠岡のみで、一番金額が高いのは笠岡市になっているという状況があることを説明しています。続いて協1-7と協1-8ですが、これは子育て世代のネットワーク作りということで、今年度導入した「すぐ一る」というものがあるのですけれども、これを使って学校・家庭・地域を繋ぐネットワークを作っていることで、色々なことを話し合うこともできます。それからPTAという存在もある意味ではネットワークということで、子育てとか色々なことの悩みとかも話し合うこともできたりする場になっているという説明をしています。続いて協1-9から協1-12までですが、これは小中一貫教育について、今までの考え方、そして今後についての説明をさせてもらっています。そして7点目の6・3・3制のカリキュラムなのですが、これは小・中にプラスで3が入っていますけれども、高校までのことを聞かれていたので、中高一貫教育についても今後考えていくというものも付け加えて、今までの小学校・中学校プラス高校についての考え方も説明しています。

そして8点目は学校の規模適正化ですが、市長の任期の間に大島東小学校を大島小学校に統合したり、今井小学校を笠岡小学校に統合していったこと、それから今後について新たな計画が必要だと考えているということを市長から答弁していただきました。教育委員会においても、今後次期計画を策定していくと聞いているので、将来を担う子ども達の育成にふさわしい計画になるよう望んでいるという答弁を市長がしています。そして協1-13と協1-14の部分は、ここは直接関係がなかったので説明を省かせていただこうと思います。こども部が関係した答弁をしています。

続いて、資料協1-15から協1-27、個人質問で、真鍋議員です。まず、協1-15・協1-16ですが、これは学校の校舎の窓ガラスについて、能登半島の地震があった関係で校舎や体育館等、そういったガラスが割れている状況があったので、以前にも文部科学省の方からも通知が出ていたのですが、できるだけ強化ガラスにしてくださいという内容でした。笠岡市の状況については、平成以降の新設校舎については全部強化ガラスに変えており、それよりも古いものについては、大規模改修をした時には強化ガラスを入れるようにしていきたいと回答しています。倉庫のようなところは強化ガラスになっていませんが、子どもが特に普段出入りするような主なところは強化ガラスにしていきたいという状況にあるという説明をしました。それから協1-17は、特に子ども達の成長の記録、支援が必要な子ども達の記録をファイリングしたり、記録したりする「かけはし」というものがあるのですけれども、特に障害があって支援が必要な子ども達にはそのファイルがあることによって、今回も地震等があって、避難した先でも役立つことがあるので、それを持っている保護者を中心に役に立つのですよということをきちんと啓発して、日頃から記録をするようなことができないかという質問でした。その保護者に対しては、教育委員会としてもきちんとメリットを説明して、今後にも役立てるように、記録を残すように、避難所を運営する上でも、避難した先でも役立つものだというのを保護者には伝えていくという説明をしています。そして協1-18は、学校教育全般について色々質問が出ました。先程言いました、学校・家庭・地域を繋ぐ連絡システムの「すぐーる」というものを今年度導入しています。その状況を尋ねられました。これについては大多数の学校で使ってもらって、保護者の方も都合の良い時に見て、都合の良い時に返事を返してくれたりとか、双方向の連絡はできているのですが、まだ学校によっては欠席をする時、遅刻する時というのは、やはり子ども達の状況が気になるので、直接電話をしてくださいという所がまだ残っています。そういった所についても、今後メールを受けた後、学校の方から連絡する

などして、親と連絡を取る方法もできるのではないですかということで、できるだけ「すぐーる」を使って、先生の方の都合ではなくて親達の都合の方も考えながら、できるものについては活用してもらうようにやっていくという説明をしています。それから2点目は、生理用品を保健室ではなくてトイレに置けないかということでした。生活に困窮されている人とか、困った時とかも先生の所へ行って、何回も何回も行くことによって、気兼ねをして取りに行かないということもあつたらいけないので、トイレに置いてくれないかということでした。笠岡市内では、3校の中学校が今現在トイレに生理用品を置いているのですが、それ以外の所についても、できるだけ置けるようであれば置いてくださいということでした。保健室で全ての学校が対応はしていますが、養護の先生が体調の状況の聞き取り、それからその時に生理の随伴症状が出てきたりとかということもあるので、医療機関を勧めるとか親との連携をとるとか、そういったことも養護の先生はしているので、一概に全てトイレに置いた方が良いということではないので、今後子ども達の様子も含めてサポートできるようにやっていきますという回答をしています。そして、3点目・4点目が共通したような課題にもなってくるのですが、支援が必要な外国人の子どもについてですけれども、外国籍の子どもさんは1人ということです。外国籍でなくても、日本籍であっても支援が必要な子どもがいたりとか、見た目だけで外国人だなと思っても日本籍だったりもあるのですが、ちゃんとした対応を今までもしてきているので、それを活かしながらやっていこうと思っています。色々な支援の方法があるのですが、岡山県国際交流協会の力を借りたり、AI端末、それから1人1台端末の運用、そういったものを使いながら支援しています。それと人のネットワークも、笠岡市・福山市とかの中にそういった外国語を喋れる方、英語や中国語、韓国語の通訳できる方はいらっしゃるのですが、それ以外のものについても情報のネットワークを持って、対応できるようにやっていこうと思っています。それから5点目・6点目、文化系の部活動の地域移行のことについての質問でした。今現在、今井小学校等でも絵画教室をしたりしています。それから公民館等も使って、各種講座もしています。そういったものも活用してもらいながら、部活動の地域移行、文化系についてもできるだけ幅広く指導者を確保しながら、子ども達のそういう機会を確保するようにしていきたいと思っています。また、今現在、地域移行について、なかなか会議等も進んでいないので、受け皿もできていません。運動系の方が多少は進んでいるのですが、これについても一緒になって考えていこうと思います。今年度は岡山フィルハーモニック管弦楽団の協力をいただいて、吹奏楽の実技指導

はしっかりとやっていただくことができました。今後についてはまた色々、市内にいらっしゃる指導者を含めて話をしていきます。3月25日にまた検討委員会があるので、持続可能な部活動地域移行について検討する場を設けて、協議をしていきます。次に協1-21、校則について、特に金浦中学校のことを取り上げてくれています。それから笠岡小学校の自由進度の学習など、学校教育の取組についての質問でした。内容について、教育長が説明してくださり、個別最適な学び、協働的な学び、こういったものの充実を図るということを説明しています。校則の見直しについても、子ども達が自主的・主体的に考えて取り組めるような状況が生まれてきているので、今後もしっかりと活かしていくという内容の説明をしています。続いて8点目は、文部科学省が提唱している令和の日本型学校教育について、進んでいない所と進んでいる所の、地域の格差があるのではないかという質問でした。これについても実際にそういう所があるので、しっかりと対応できるように、先生の研修等も含めてやっていくということと、AI教材等も活用しながらやっていく、地域学、地域探究活動、体験活動、交流活動、そういったものも含めて子ども達の協働的な学び、個別最適な学びというものを推進していくということを伝えています。そして協1-24は、これは真鍋議員が関わった「夢見る小学校」という映画、文部科学省推薦なのですが、その映画の上映会があって、市長、教育長、それから教育委員会の職員も見に行っただけですけども、その感想を求められました。市長の思いとして、資料に記載のとおりですので、また読んでいただけたらと思います。教育長についても、やはり子ども達が一人一人の可能性を引っ張り出していく、可能性にちゃんと向き合っている作品であるということで、一人一人皆違うということを基盤とした教育を具現化し、一人一人の個性を大切にする教育、自分で考え行っていくという感想を聞いています。学びの楽しさに出会うことがこれでできていく、好奇心を、目を輝かせて、体験的なものを中心にした映画でした。観られた方の中には、テストがなかったり、色々なことを教育として取り組んでいる、通知表がない学校を紹介されていたりとかして、楽しそうだな、良いなという感想を持たれたような感じは受けました。それが本当に教育として、皆さんが絶賛してくれるのかどうかというのはまだ色々課題はあると思いますが、一石を投じてくれるような映画ではあったのではないかと思います。以上のような内容の質問がありました。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

(2) 令和5年度笠岡市一般会計3月補正予算(教育関係)について(教育総務課)

松尾課長 資料協2-1をご覧ください。教育費関係の3月補正予算で、こちらは既に議決をいただいているので、確定額です。表の左から2列目の12月補正後予算額の一番下の段、予算合計が26億6,403万7千円です。これは12月の定例会で報告させていただいた額ですが、これに対してその隣、3月補正予算額として9,721万円の増額を計上していて、表の右端の一番下の段、3月補正後の予算合計額は27億6,124万7千円となっています。3月補正予算の主なものについては、協2-2と協2-3に歳入予算、それから協2-4と協2-5に歳出予算を載せています。協2-4の歳出予算で、主なものとしては、まず教育総務費ですが、ここではスクールボートの改修にかかる費用について、修繕料から委託料への組み替えによる増減、物価高騰の影響により不足が生じたスクールボートの燃料費の増額、それから人件費に係る部分を中心に補正しています。次に小学校費及び中学校費のうち、まず学校管理費は、施設整備にかかる費用の修繕料から施設維持改良工事への組み替えによる増減、また教育振興費では、外国語指導助手の配置事業委託料や、要保護・準要保護生徒就学援助費等の実績による増減があります。それから学校管理費及び教育振興費については、人件費に係る部分を補正しています。そして、学校建設費は新規事業として、国の学校施設環境改善交付金のうち、特別防犯対策施設整備工事というメニューを活用して、学校施設整備工事費として、小中合わせて6,218万円を計上しています。これは、校内に防犯カメラと人感センサー・モニターを設置するもので、この事業については、令和5年度補正予算に計上した団体には優遇措置があったため、今回予算計上し、全額を繰り越して令和6年度に工事を完了するものです。次に幼稚園費は、認定こども園等施設型給付費の実績による増額、それから人件費にかかる部分を中心に補正しています。続いて社会教育費ですが、放課後子ども教室の活動実績による減額、市民会館やカブトガニ博物館の工事費の実績による増額、それから人件費に係る部分を中心に補正をしています。最後に保健体育費ですが、協2-5をご覧ください。主には準要保護児童生徒援助費、学校給食費、及び新型コロナ物価高騰対策として実施の学校給食食材費補助金の実績による減額、そして人件費に係る部分を中心にそれぞれ補正をしています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

### (3) 金浦みらい学園の施設整備について（教育総務課）

松尾課長     資料協3-1をご覧ください。まず、金浦中学校ブロック小中一貫校の整備検討委員会については、令和6年2月16日に第9回目を開催しました。まず、2の協議内容の(1)の新校舎の建設場所についてですが、令和6年1月22日に開催の第8回整備検討委員会で、配置比較表により、新校舎を校庭南側エリアに配置した場合の案と、南棟屋内運動場南エリアに配置した場合の案について、メリット・デメリットを説明したところ、委員からは校庭南側への配置を推す意見が多数ありました。その際には建設可能エリアのみを示したので、今回はよりイメージが湧きやすいように一例として、新校舎の配置場所について具体的に図面に配置し、協3-3のA-1案と、協3-5のB-1案の資料をもとに、A案が良いのかB案が良いのかということ、どちらに建設した方が良いのかと意見を聞きました。その結果については、2月定例会で説明したように、出席委員全員の方が、校庭南側に配置するA案の方が良いという意見になりました。新校舎は校庭南側に配置するということになりましたが、次に新校舎の周辺について、例えばテニスコートや児童クラブ、駐車場などの配置について、資料協3-3のA-1案、及び協3-4のA-2案を示して、検討いただきました。協3-3のA-1案は、児童クラブを新設校舎の南側に配置し、新校舎との間に低学年の遊び場や遊具のスペースを設けて、現在敷地の南東側にあるテニスコートを屋内運動場の西側に移設しており、敷地の西側が中学校、敷地の東側が小学校と児童クラブというようにゾーニングした配置となっています。協3-4のA-2案は、新校舎の南側は既存のテニスコートを3面残すようにし、新設校舎の東側に遊戯スペースを設け、児童クラブは既存の中学校の南側に移設するようにしており、テニスコートを含め既存施設をできる限り活用することにより、敷地南側に十分な広さの駐車場を確保することができる配置となっています。委員の皆様からの意見をまとめると、A-1案をベースにテニスコート、児童クラブ、駐車場については概ねこの配置で問題ないということでした。道路からのアクセスについて今後検討するということで、進めることになりました。次に(2)の必要諸室についてですが、基本計画でまとめた必要諸室リストを、既存施設の有効活用や使用頻度等を踏まえて再度検討し、一部を修正した点について、協3-7から協3-8の資料に沿って説明しました。続いて(3)の各階の平面図についてですが、校庭南側エリアに配置した場合のA-1案をベースに進めていくという意見であったため、協3-9から協3-11の資料2・資料3・資料4で、1階から3階までの配置について具体的に説明しました。今回の協議内容について、委員の皆様

からの意見は3の主な意見に記載のとおりです。低学年の遊び場や運動場、体育館、校門、教室等の配置などについて、色々な意見をいただいているので、引き続き委員の皆様からの要望や意見を聞きながら、より機能的な配置になるよう検討していきたいと考えています。現在は学校からの要望等を再度出していただき、平面図の見直しを行っています。今月末の3月29日に開催の第10回整備検討委員会の際に、修正案を示すように資料を作成しているところです。今後の予定としては、令和6年6月補正予算での基本設計・実施設計等の予算計上に向けて、6月までには事務局のたたき台として、平面図を完成させていきたいと考えています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 場所が南になって、テニスコートや学童クラブの場所がある程度決まってきたということで、あとは教室の関係があります。今すぐ見られて、なかなか意見は言いにくいでしょうが、また見られて、何かあったらメールでも構いませんし、事務局に言っていただいたら、次回の検討委員会の中でも意見をいただくことがあると思います。

藤谷委員 意見というか、見ても、実際にその場所に入ってみないとなかなか良い悪いが分からないので、検討委員会の委員の方、それから学校の先生とかの意見も十分聞いていただきながら、最終的には使い勝手の良い、無駄のないような配置で検討を進めていただけたらなという風に思います。

松尾課長 事務局としても同様に考えているので、先程少し説明をさせていただいたのですが、学校の方ともキャッチボールをしながら、その配置についてはより機能的なものになるようにしていきたいと思っています。

岡田教育長 前回の整備検討委員会の中でも、各校の校長先生が出られていて、結構具体的な要望というか指摘があって、次回に向けての調整をしていて、図面に落とし込んだり保護者の方々からの意見もあったり等しているので、今、結構意見は細かいところが出ていますね。

松尾課長 例を示したら、イメージが色々湧いてこられて、様々な意見を出していただくことができるようになったと感じています。

東山委員 金浦小学校のお子さん達、要望に来られたのは昨日でしたか。

岡田教育長 水曜日に来られて、ここで六つの提案ということで要望に来られました。

東山委員 エレベーターとか言われていましたね。

松尾課長 エレベーターは設置するということで進めています。子ども達なりに色々考えて、こういう学校が良いというものを、自分達で考えて行動に移して、すごく素晴らしいなと思いました。

岡田教育長 これは金浦小学校の6年生が地域探求活動の中の総合的な学習の時間で、提案されました。ただ、金浦中学校にできる一体型一貫教育校については、城見小学校と陶山小学校も関係あるので、その意見も聞きますということで答えています。子ども達の発言を聞いていて、私が「ああ、そうなんだ」と思ったことが1点あります。それは、「交流を増やして欲しい」と書いてあるのですが、私達の意識としては、中学校との交流、それから小学校同士の交流、今は結構、縦も横も交流をしているつもりだったのです。でも、それがまだ少ないような感じの発言がありました。中学生ともっと関わるような場や、就学前も含めて、子ども達にとって交流というものが、私達が思っていた以上に求められているのだということは正直びっくりしました。この何年か意図的にしてきたつもりだったのですが、子ども達が求めるのはもっとそれ以上みたいな感じでした。せっかく同じ敷地内でやるのだから、今から色々なことを一緒に学びたいというか、してきたつもりだったので、子ども達はもっとこういう意見を持っているのかということは正直びっくりしました。またこういうことを、整備検討委員会の中でも、それから各校歌をどうするか、制服をどうするかという部会がやがて立ち上がるので、その中でしっかりと子ども達や保護者、地域の方、色々な世代の思いを汲みながらしなければいけないということは思いました。

東山委員 より良いものができたら良いですが、例えばA-1とA-2だったら既存のものが多く部分、やはり予算は少し安くなるかと思います。どのぐらいかかるものなのでしょうか。

岡田教育長 今現時点では、子ども達から予算についての質問があつて、藤代課長補佐が答えてくれたのですが、今現在では40億でしたか。

藤代課長補佐 40億まではかかりませんとお伝えして、37億円から38億円ぐらいかなと答えました。

岡田教育長 ただ、整備検討委員会ですとどうせするのであつたら、やはり長く使えて、必要だったら良いものというような意見もあるので、それを入れて、図面を少し変えたりしています。また報告をさせていただこうと思います。

#### (4) 令和5年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果について（学校教育課）

槇野課長 それでは、資料協4-1をご覧ください。令和5年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果についてです。先日2月に岡山県の方から集計結果の方が公表されたので、紹介します。まず体力についてですが、笠岡市の結果と全国との比較の表です。新体力テストを行っていて、8種目の結果ということになります。四角で囲っているところが、その合計点という

ことになります。笠岡市が、得点でいくと54.22点、全国が52.59点、これは小学校5年生の男子になります。その下が女子、そしてもう一つ下の表が、今度は中学2年生の男子・女子ということになりますが、いずれも全国の平均よりも少しずつ良い結果になっています。右の方が種目それぞれですが、どの種目も少しずつ笠岡の方が上になっていて、下辺りを見つけていくと、小学生の方では長座体前屈、これは体の柔軟性を見るものなのですが、ここが男子・女子とも少しずつ、小学生の方が低い値になっています。それから中学生になると、20mシャトルラン、これは持久力を見るようなものなのですが、男子・女子で少しずつ下回っているということで、男子・女子とも、笠岡の課題でもあるかとも捉えています。全体的には良い結果になっていると思っています。その下、(2)標準スコアは、全国平均を50とした時の換算値で、50以上であれば全国より上ということですが、いずれも50を上回っているということです。その標準スコアの上半分は今年度の値、そして参考として、下に令和4年度の調査を入れています。一部折れ線になっているのですが、これは折れ線になっているものについては、令和元年と令和4年の同一集団の比較ということです。ただ他のところが、コロナの関係で令和2年はこのテストができていないということで、そこについては線が出ていなくて比較はできていないのですが、特に女子の方で令和元年と令和4年を比較すると、上がっているという結果が出ています。協4-2をご覧ください。今度は質問紙の調査の中で、「運動やスポーツをすることが好きか」という問いがあって、上半分が今年度の調査結果ということです。概ね笠岡と全国で比べると、小学5年生の方はほぼ同じ値、それから中学2年生、男子・女子では少しグラフに違いがあります。例えば、中学2年生男子では、まず運動が好きであるという子が、笠岡では59.0%ということで、少し全国よりは下回っている値になっています。「好き」から「やや好き」というのが32.3%、ここまでを肯定的回答と捉えるのであれば、合わせると笠岡が91.3%、全国が89.4%ということなので、全国よりも上回っているかと考えています。そのように見ていくと、いずれの小学5年生・中学2年生とも全国よりも上であるということ、そして昨年度、令和4年度調査でもやはり同様のことが言えるのですが、ただ昨年、小5女子のところが、「やや好き」を入れても全国よりも少ない値、合計81.5%が令和4年度小学女子ということです。令和4年度はそういった結果でしたが、今年はどうかと言うと、右上の小5女子のところを見ていただくと、「好き」・「やや好き」を合わせると88.7%ということで、ここは改善と思っ

れからも親しんでもらいながら、体力をしっかりつけてもらえたらという風に、今回の結果は受け止めています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 この結果について、何か理由とかがあるのですか。

槇野課長 特に分析はできていないのが正直なところですが、子ども達の様子を見ると、例えば、小学生は昼休みになると本当に皆喜んでグラウンドに出て、サッカーをしたりジャングルジムに登ったりということをしています。中学生で言うと、部活動の方に所属している、運動部は大体6割の子が所属していますが、無理がない範囲で時間をきちんと守った中で、楽しめるということも含んで、スポーツに参加をしているということです。そういった雰囲気が好きであるということにも繋がっているのではないかと考えています。

藤谷委員 令和4年と令和6年の比較をしてあるのですけれども、それぞれ小5の男子・女子、それから中2の男子・女子とあるのですが、令和4年と今回を比べて、例えば先程説明のあった小5の女子では、肯定的な意見が増えたという風にも見えるのですが、同じ人間を対象にしていないのですね。だから改善したというよりも、人数の割合が令和6年の場合は多かったという見方かと私は感じたのです。同じ児童で2年後に調査した時には、増えたとか減ったとか言えるのではと感じました。

岡田教育長 ありがとうございます。同一集団ではないので、言われるとおりですね。他に何かありますか。

教育委員 (なし)

#### (5) 令和5年度小中一貫教育に関するアンケート調査結果について(学校教育課)

後藤参事 別冊で、令和5年度小中一貫教育に関するアンケート調査結果というものがあります。今年度12月に調査をした結果です。1ページから2ページが今の小学校6年生のアンケート結果になっています。③番の「中間テスト・期末テストで頑張ろうと思う」という項目について、肯定的割合が約9割、それから④番の「新しい先生と出会うのが楽しみだ」という項目について、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」という肯定的割合が約8割ということで、中学校に向けて非常に期待感を抱いている児童の割合がとても高い数字で出ています。一方で、2ページの⑨番の「中学校では各教科の先生から宿題が出るけれども、自分で計画を立ててすることができそうだ」の項目について、肯定的割合が約6割強ということで、この中では一番低い数字となっています。小学校の高学年から、自分で計画

を立てて学習する力を育てていく必要があると考えています。4ページから8ページが、今度は中学校1年生のアンケート結果で、これは中1の子達が小学校6年生の時に行ったアンケート結果と比べています。どの項目についても、この中1の子達が6年生の時に期待していた以上の成果が、中学校に入ってから学習面でも人間関係でも出てきています。特に今年の1年生については、「学校に行くのが楽しい」が94.1%、長欠・不登校の数が減少しており、小6から中1へ大きな段差なくスムーズに支援ができて、中学校生活が本当に楽しい、充実しているという様子がうかがえます。小学校での小中一貫教育の体験が中学校生活への負担に繋がったかどうかということで、8ページをご覧ください。小学校での体験で、不安軽減に特に効果的であった取組としては、中学校での授業体験において、中学校に実際に行ってみて、そこで授業を実際に体験してみるということについては90.9%ということで、かなり不安の軽減になっているという数値が出ています。それから、中学生に中学校の生活について説明してもらうという取組についても、非常に高い数字になっています。次に、10ページから教職員アンケートの結果です。10ページから15ページです。教職員アンケートの数字をまとめた1枚ものの資料が別にあるので、ご覧ください。「令和5年度学園別教職員アンケート結果」というものです。教職員についてはアンケート項目が5項目あり、4項目については非常に高くなっているのですが、1項目だけ減少している項目があります。それが③番の「小中合同研修会や乗り入れ授業等を通して、互いの指導法の良さを取り入れる意識の高まり」というところが少し下がっています。これは先生方の記述なのですが、研修について、「小中9年間の繋がりを見通した、教科指導の研修・研究を行っていききたい」であるとか、「まだまだ校内研究のテーマが学園で揃っていない」、「各校の取組を統一することに困難さを感じる」、「小中教職員の連携ということで、小学校の育てたい力が中学校でうまく連携できない」など、まだこの小中連携については、これからしていかないといけないことがたくさんあると先生方は考えておられます。一方で、これを取り組むには、先生方の負担というものは大きいような状況にもなっているので、小中が合同で研修を行っていくことについて、あまり新たなことをどんどん付け加えるということではなくて、今ある既存の研修を、それぞれ小学校でやっている研修、中学校でやっている研修を、小中合同にしていって効果的に行えるように、改善していく必要があると考えています。冊子の一番最後、29ページをご覧ください。アンケート結果をまとめています。またご覧いただけたらと思いますが、本年度は小中一貫教育が本格実施されて、子ども達、先生方、それから学

校ともに小中の繋がりという意識が本当に高まってきて、それに伴う成果が上がってきています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

山下委員 まずアンケートなのですが、正直な話、途中経過なのかと思います。というのが、単発ではなく継続的に見ていかないと、その効果というものははっきり断言することはできないと考えています。もう一つ、子どもの方からのアンケートとして、肯定的な割合が少ない項目というものはあったと思うのですが、それは単純に具体的なイメージが見えないからというのが、その影響に繋がっているのではないかと感じました。それよりも、見えてすごく衝撃というか、なるほどなと思ったのが、先生からのコメントというか、13ページの後半です。教職員の多忙化についてからなのですが、ここに「とにかく時間がない」、「負担が増えた」、「人が少ない」ということが踊り狂っている状況です。おそらく正直な感想なのだろうということなのですが、これが例えば、今ずっと仰っていた仕組みの構成というか、色々検討しますということでしたけれども、それで対応できるものなのか、今後小学生・中学生が減っていく中で、さらに先生が減っていくということが予想される中で、これが本当に持続可能な仕組みなのかというところは、よく検討されるべきではないかというのが正直な感想です。

後藤参事 本当に仰るとおりで、新しいものを導入した時の産みの苦しみというのが今は確かにあります。少し変えていこうと思っているのが、今は既存の研修形態として、笠岡市に笠岡市教育研修所総会があつて、これを現場の方の意見も聞きながら、別々に研修をするのではなくて一緒にしたらどうなんだというような意見が現場から出てきたので、新しい小中合同研修を作るのではなくて、今あるものを少し変えていこうかと考えています。新しいことをどんどん増やしていくのではなくて、昔のものを少しリニューアルしたりとか、できるだけ負担が大きくならないように努力はしていこうと思っています。

岡田教育長 その他に何かご意見はありませんか。

東山委員 教職員の多忙化の中の二つ目のところに、「人員不足のため教員の余裕がなく、教材研究の時間が軽視されている」とあります。小中一貫教育もとても大切なのですが、本来の教育に対するところが抜け落ちてしまうと大変な事になるなと感じました。先生方の疲弊がすごく伝わってきて、本当に気の毒だと思いました。前向きに捉えてくださる先生もいれば、「しんどいです」という本音の部分が多く読み取れました。学園のスタッフ全員、関わる先生方全員が同じ方向を見て、例えば何かこういう風にしたいというものがあったら優先順位をつけて、欲張る訳ではなくできていけば良いのかな

と感じました。あとは上手くいっている所、あまり不満なくいかれている学園があるようでしたら、取り入れるべき点があるのかと思います。

後藤参事 負担感もある一方で、私は教員集団が多い中で、先生方と色々な情報共有をしながら、たくさんの先生方の考え方を自分の中に吸収しながら、色々なことを勉強させていただいてきたのですが、笠岡市の学校は小規模化していて、少ない人数でしか情報交換できないような状況があります。ですので先生方が大勢集まって、小学校・中学校と校種関係なく集まって、自分の悩みを、先生方がお互い意見交換をする、そういう研修ができれば良いなと思っていて、何かレポートを書いて研究していこうという堅苦しいものではなくて、自分が今教育をやっている抱えている悩みとか相談したいことが、色々な先生方と校種を超えたり学校を超えたりして話し合えるような、研修の改革を来年度考えています。

東山委員 コミュニティスクールのところ、地域や保護者の学校参画率が低いというところ、そこら辺も地域や保護者がもう少し積極的に加わってくださったら、学校の先生方も少し楽になる部分があるかもしれませんね。

後藤参事 本当にそこも改革していきたいというか、学校運営を学校だけが進めていくのではなくて、地域の方とか保護者の方が学校運営に参画していけるように、熟議とかも今は取り入れているのですが、どうしてもまだ学校主体で学校運営協議会が回っている所があるので、来年度は先進的に取り組まれている所の方の取組の紹介を行うといった、研修会も計画はしています。地域の方とか保護者の方の意識も変えていく必要はあると思います。

東山委員 学校運営協議会だと、会長さんだけですね。小学校・中学校、ほぼ会長や副会長だけが出られるけれども、例えば小学校のPTAの役員会は小学校だけ、中学校だと中学校の保護者の役員会だけみたいなので、何かそこら辺も関わるところができたりすると、意見交換にも繋がるのかと思ってみたりもするのですけれども、保護者の方も負担が増えて大変かもしれないですね。

後藤参事 その辺も上手に学校も取り込みながらというところがまだできていないのかと思っています。

東山委員 視察に行かせていただいた時も乗り入れ授業を見させていただきましたが、12ページの下の方に、「乗り入れ授業では、T-1あるいはT-2として小学校の授業に関わって欲しい」というところ、ここら辺を説明いただけたらなと思います。私達が見せていただいた時に、中学校の英語の先生が来られていて、小学校の先生、男性教員の方だったと思うのですが、一生懸命英語の教科書を読みながら授業されました。私は見ていて、せっかく中学校の英語の教諭が来られていたので、もっと上手く活用され

たら良いのになと思いました。そこを小学校の先生が頑張って進めようとしていて、あの辺りは少しもったいないのかなということを思ったりしたので、そういう風な意味合いのことなのかなと思ったりしました。

後藤参事 中学校の教員が乗り入れをした時には、T－1として主でやっていただいた方が本当は良いのかなと思います。この教室の中で2人教師を配置した時に、主でやる人はT－1、サブでやる人はT－2なのですが、T－2で中学校の先生方が入って、後ろで補佐する形というような場合があるのですけれども、多分この書きぶりは少し違うかもしれないのですが、できれば積極的にT－1に関わって欲しいというような感じなのかもしれないです。

槇野課長 おそらく中学校の教員が乗り入れるということになるのですが、そこに任せてしまって、小学校の方が授業に関わっていないという意見なのかなと思っていて、任せてしまうのではなくて、できればしっかり打ち合わせをしながら、こういったところはT－1として、中学校の教員がしっかり専門的なところをやります。そこに対して、小学校の方がそれを補佐するような感じで、子どものことをよく分かっているのは小学校の先生なので、お互いで授業を作っていくというところへいかないと、なかなか中学校の負担ということになってくるということで、ただ課題として、それをやろうと思ったら打ち合わせや準備時間がどうしても必要になってくるので、今のところはこれがまだ改善できていないということもあると思っています。これも少しずつ慣れていくということも含めて、できていったら良いなと思います。ウェブでやりながら打ち合わせしたりとか、色々な工夫をこれからしていく必要があるのではないかと考えています。

岡田教育長 その他に何かありますか。

西崎委員 この9年間を見通したという時に、研修もそうなのですが、今は小中を言われているけれども、幼稚園や保育園の先生も交えた大きなものが必要なかなと感じました。小学校の低学年、特に1年生の担任というのは、幼稚園の時の様子とかというのはとても知りたいのではないかなというのは、娘を学校に行かせながらそこを感じていて、そういう連携がやりやすいような環境を整えることも大事なかなというのはすごく感じています。というのが、小学校低学年で不登校になった場合、学校に行きにくくなった場合、保育園の時はどうでしたかと、家庭環境等というものは、保育園の先生というのは結構よくご存知だから、0歳児から見ている訳だから、そういうアドバイスをもらいながら、小学校の学習面ではこういう風にサポートをしたら、その子がより学校に来やすくなるかという連携が取りやすいのではないかなと思って、どうしても小中一貫となったら高学年の

方に、5・6年生から中学校への移行という風に意識的に思えてきてしまいます。低学年1・2年生は保育園の先生との連携も強化してあげたら良いのではないかとすごく個人的には感じています。

後藤参事 笠岡市の研修所の改革の中で、小学校の生活という部会と就学前の先生方をくっつけて一緒に研修をしていきませんかという提案をしたのですが、幼稚園と保育所の方との連携がまだ不十分なので、就学前の方でしっかり繋がって、その後小学校の生活の部分と繋げていこうというようなことは考えているのですが、今の段階では小学校と就学前が、いきなりすぐという状況ではないと考えています。

岡田教育長 今のは笠岡市教育研修所の話だと思うのです。現実とは少し違うと思うのですよ。就学前の保育・教育施設と、義務教育に入る小学校1年生の繋がりが大事だということで、二つやっていることがあって、幼保一体化の流れの中でずっと、3・4年前からやっているのが合同研修会という、接続カリキュラムというカリキュラムを作っています。これは就学前から義務教育を繋げるものです。この研修を毎年、小学校の1年生・2年生ぐらいですか、先生と保育所の先生達とで、実際に各ブロックで研修をしています。それが全体の場合と、その具体的なところの研修をしています。それからもう一つは、個人の話でいくと、子ども達が就学するところにはきめ細やかに情報交換の場を設けています。小学校に入る前に、実際にこの子がこういう風な課題があるのですよという情報があったら、この小学校の現1年生の担任が、来年の子ども達ですが、見に行ったりしてそこで、こども育成課と連携しながらやっているのです。ですから後藤さんが言ったのは研修という、既存の笠岡市教育研修所というものの中での話なのですが、現実の話としてはそこに接続をする部分が、今はもう設けています。もう一点はグランドデザインを、例えば金浦みらい学園では作りますが、その中には関係する城見保育所とか金浦幼稚園とか新川保育所とかの園長先生達、代表の先生に入ってもらって、全体の中で役割分担をしているので、その部分はこの幼保一体化の流れと一緒に、結構進んできているのかなという感じがするのですが、松尾課長はどうですか。

松尾課長 特に公立の保育所・幼稚園は、小学校に近い所にありますので、普段から保育所等からも小学校の方の先生に、「こういうことをするのでまた見に来てください」というような案内や声掛けをしていたりしていました。そうしたら、小学校の先生方も、時間が空いた時や行事の時等に来てくれ、子どもの様子を見ていただくというようなことは結構してきました。ただ、私立の場合には、学校から少し離れていたりという位置関係からそういうところができにくいということもあるので、私立とのより充実した

連携というところが今後の課題としてはあるのかと個人的には感じています。先程教育長が言われた接続カリキュラムについては、私立も含めて実施しており、研修会等にも参加いただいていたと思います。

岡田教育長　こども部のこども育成課が中心になって、そのところが力を入れてくれているので。多分皆さんが言われたように、教員の負担感というものが現実としてどういう形で発生しているのかということをもう少し細かく見る必要があると思うのです。例えば研修も通常の研修があります。県がやっている研修もある訳です。その県のやっている研修、それから市がやっている研修の中に担当が行く研修と、小中一貫として笠岡市が特に力を入れている場合の研修があると、そこが増えますね。その中でブロックごとに、例えば金浦みらい学園でも各部会を作って、そこで情報交換会をしているのです。ですからその実態を把握する中で、まとめられる研修はまとめるということと、先程言った全体の研修の中でまとめられたら、小中一貫と関わるような研修を研修所の研修に入れ込むとかという手立てが一つ、研修をより整理する必要があると思います。これは来年度から実施してもらいます。もう一点は根本的に、連携すると打ち合わせが必要ということになったら、人の配置のことが関係してきます。今、金浦みらい学園に常勤を1人配置していますね。そこはそういう担当がいるから、その人がコーディネートしながら仕掛けていけるから、他の先生方はそれに従えば良いから、精神的には楽になります。となると、そういう人を配置した方が良いのであれば、それも考えなければいけないと思います。お金がかかることだけれども、どこかから生み出すとか、そういう風に現実をしっかり分析して捉えて配置しないと、山下委員が最初に言ったように、持続可能・永続的にこれが機能するかどうかというのは、学校教育課が説明した改善等とは違うと思います。明らかに子どもの数は50人ずつぐらい減っています。となると、学級数が減りますから、今プラスアルファの先生がいる学校だったら、小学校だったら笠岡小・中央小・金浦小とかに限定される訳です。だから、その部分は教育改革推進室の中である程度、学校現場の方々と相談しながら把握して、対応を先を見越してする必要があるか分かりません。例えば乗り入れ授業で、ここに書いてあるように小学校から中学校への乗り入れ授業はあるのですか。

後藤参事　それは現実的に難しいと思います。

岡田教育長　何故なら、その理由は、小学校の先生は小学校の免許だけだったら、中学校の国語の教科等を教えられないのです。だから、例えば、小学校の教員免許を持っていて中学校の国語も持っていないと、いくら行こうと思っても教えることができないのです。もう一つの理由は、小学校は小規模校

が多いですから、先生がいないのです。となると、中学校に行こうと思えば、教頭先生が日中先生がいない学級を見ていないといけないという現実もあります。ここら辺を考慮して対応策を考えないと、小学校から中学校へは難しいと思います。道德の授業は免許に関係なく、小学校の免許を持っていたら中学校で授業ができるのです。週1時間道德の教科があるので、そうするとそこが、小学校が入ると中学校は楽になりますね。ここにT-2といって、個々の状態を把握するようなことができれば。だから、そういう風にある程度具体的な対応モデルというものを示すことも必要だと思います。あとは総合的な学習の時間では、地域探究活動の中で、同じ課題解決のテーマをするのではないですか。例えばどここの何とかについて調べるのであったら、小学校・中学校の先生が全体でそこを一緒にやっていく、ただ、その中で、中学校と小学校は、その研究テーマに関しての質は変わりますね。だからそういう風なことを、具体的なバリエーションを示すことも必要かと思います。「学校で考えてください」と言ったら、会議が増えます。でも、モデルを示すと真似ることができるから、少し会議の量が減る等、そういうものを考えていった方が良いのかという気がします。根本的には、負担感は、今のやり方を変えて整理することと、それから人を増やすしかないと思うのです。皆さんの意見を聞いて、そこは少し、互いの手法の良さを取り入れる意識の高まりが、負担感の方が高まってきて、その良さが減るかも分からないのでという感じがしました。

後藤参事 人の配置についてはお金が必要なことなので、難しいところもあるかもしれません。

岡田教育長 それは先程の補正予算の額でいうと、27億ぐらい教育費全体で使っている訳ではないですか。その中でどうにか生み出すことも必要かと思えます。これが学校教育の中の基本的な、これから核として色々としていこうとするのであったら、やはりある程度考えなければいけないのかという、付け焼き刃的なものでは、委員の皆さんが言われたように対応できないと思います。全てはできないのだから、せつかく今は良い方向に動いているのであったら、きちんとした就学前の仕組みを作って、先生達の負担感をどういう形で解決するのかということは思います。

東山委員 今日の午前中に、未就学の子育て団体の母親クラブの役員会をやってきましたのですが、その中で未就学のお母さん達から、「小中一貫教育とは何ですか」、「学園とは何ですか」、「今ある学校がなくなって生まれ変わるのですか」みたいなことをたくさん聞かれました。未就学のお母さん達は心配されているのか、気になってはいるのだけれども情報が分からないということ言われて。一度あるクラブが、出前授業で先生方がお2人学教から

来てくださって、その説明会を受けて、「ああ、こういうことだったんだ」ということで、作ってくださっているパンフレットを見ながら、少し理解に繋がりましたということと言われたのですが、クラブに所属していても、そういう出前講座等を知らない方達は、まだ全然分からないままなのです。それでいきなり小学校に入って、「小中一貫教育はどういうことだろうか」となってしまうので、提案をしたいと思うのが、未就学の0歳とかにはなかなか配る術がないのですが、例えば、こども園に入れているとか、年中さんぐらいの辺りでも良いのですけれども、ターゲットにパンフレット等を配付されたらどうなのかと思いました。小学校はこんな所で、自分達が小学生・中学生になるにあたって、こういう9年間の教育を受けるのですよという風なものを、保護者の方に向けて配られると、入る前から理解に繋がって良いのではないかということはすごく感じたのですが、多分そういう地道なことから、小中一貫教育という理解にも繋がると思います。ポスターについて言われたのが、愛称です。「愛称」と入っているのだけれども、学校がなくなるのですかという理解がまだやはりあって、次にもし刷り直しをされる時は、愛称ということがわかるようにしていただくとかしないといけないかと思っています。「金光学園」みたいな学園のイメージになってしまうのか分からないのですが、今ある学校がなくなってしまうような意識を持たれる方が、地域からもちらっと未だに言われるので、その都度説明をしているのですが、少し配慮が要るかと思っています。

岡田教育長 就学前の保育・教育施設に関しても説明会の場を設けていただいて、説明することも良いかも分かりませんね。こども部と連携して、特にひまわり認定こども園というのは、ご存知のように中央小学校の中にできるので、ここはまた、もっと違った特徴的な取組ができるようになるので、その辺は宿題として、また考えていかせていただいたら良いと思います。

藤谷委員 これは小中一貫教育に関するアンケートということで、聞き漏らしたのかも分かりませんが、対象者は笠岡市全部の学校ですか。

後藤参事 小中一貫教育の学園の対象になっている小中学校ですので、例えば、小北中学校、北川小学校、それから島しょ部の各校はそこから外れています。

岡田教育長 全員しているのですか。

後藤参事 小学校6年生全員と、中学校1年生全員です。教職員と、管理職が回答しています。

藤谷委員 実際には小中一貫校が、既に始まっているのですね。だからカリキュラムが、9年間を見通したやり方で新しく今年度から始まったということ

で、それに伴って乗り入れ授業等が始まっていますよというところですね。そういう状態での、今のここのアンケートになったということですね。多分学校の先生も初めてのことなので、やり方の分からないところもいっぱいあると思うのです。だから、色々な意見が出ている負担増にしても、やり方が分からないというところにしても、こういうことが出てきても今の時点では当然というか、初年度なのであるのだと思います。だから、ここに出てきた問題点を学校だけに任せるのではなくて、教育委員会も一緒に相談に乗ったり、それから学校間での連携というか情報交換をしたり、少しずつやっていく、ここに色々な問題点が出てくること自体が悪い訳ではないので、それは改善していくための一つの資料になります。そういった意味で、これを有効に次のステップにやっていけたら良いと思います。

岡田教育長 アンケートを採ったのは実態把握と改善の具体を考えるためなので、その辺は教育改革推進室の方でさせていただきます。

#### (6) 笠岡市立図書館の土曜日閉館時間の変更について（生涯学習課）

石井課長 資料協6-1から6-2をご覧ください。笠岡市立図書館の土曜日の閉館時間については、記載のとおり平成29年度から、土曜日に限って午後9時までとして、7年施行してきました。令和6年度、次年度からは、他の曜日と合わせて午後7時までとするものです。4項目目に記載の変更の理由ですが、これまでも利用促進の周知を図り、また土曜日の夜のスポット行事なども開催しながら進めてきましたが、一部の利用者の利便には繋がりが、ありがたいという声もいただいているものの、土曜日の延長部分については、1日の来館者数の3%程度に留まっている状況にありました。この状況から、7年間やってみて、利用者の需要が減ってきているということや、利用率の低迷、それに伴う職員体制の見直し、それからかかる経費の精査が必要だということを、今年度は特に感じています。そうしたことも併せて、今回変更することを考えています。参考までですが、土曜日の夜の利用状況、時間別の内訳として、19時までの利用者は、土曜日は1日平均16人で、20時まででは少し減って9人、21時までになると、最後までおられる方というのが4人というような、年間を通じてもそういった状況にあったので、見直しが必要である時期に来たと考えています。こういうことから、令和6年度からは、土曜日の閉館時間については他の曜日と同様の19時までとすること、そういう中ではありますが、土曜日の夜の開館についてはスポット事業等、回数はしばられますが、工夫を加えて今後運営していきたいということ、こういったことから変更しよ

うとするものです。なお、利用者の皆様への周知は3月から始めているところで、協6-2にあるようなチラシ・ポスターなどで周知を図っています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

#### (7) 第2次笠岡市スポーツ推進基本計画の見直しについて (スポーツ推進課)

土屋課長 資料協7-1をご覧ください。この第2次笠岡市スポーツ推進基本計画後期計画ですが、令和6年1月11日に開催した第2回スポーツ推進審議会、並びに1月19日に開催した教育委員会の定例会で皆様から意見をいただき、それをもとに素案を作成しました。そして、パブリックコメントを令和6年2月1日から22日まで実施しました。パブリックコメントの結果についてですが、提出された意見はありませんでした。そして本日、令和6年3月15日に、笠岡市スポーツ推進審議会の三浦会長から岡田教育長に答申を行わせていただいています。本日お手元に、水色の表紙になっている第2次笠岡市スポーツ推進基本計画の後期計画を置かせていただいているので、また後ほどご覧いただければと思いますが、こちらの内容を基に4月から各施策を実施していくこととしています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 ポイントとしては、後期計画では障がい者スポーツをより一層推進と、部活動の地域移行に関して表現を入れたぐらいです。あとは大きくは変わっていません。ただ、具体的にこれを受けて、スポーツ推進関係での施策をどういう風に具体化していくかというところが大切になりますので。また何かあれば仰ってください。

#### (8) 令和6年度給食費について (給食センター)

宮所長 資料協8-1をご覧ください。先般、学校給食センター運営委員会において、令和6年度の給食費についての審議をいただき、この表のとおり承認していただきました。今年度は、4月から1食あたり、小学校20円、中学校30円の補助があったので、実質的には令和4年度と同じ額、据え置きという形で保護者より徴収していました。そういった中で、給食費の金額は今年度と同額ではありますが、来年度は先程の補助というものがなくなったので、保護者の方にはこの補助分を、増額という形で徴収させていただくようになります。内訳ですが、この単価表にあるように、学校給食の牛乳の年度中の値上がりが続いていて、4月からは税込み69円にな

る予定になっています。豆乳の方は８１円なのですが、この牛乳・豆乳の金額を６０円か７０円にさせていただいて、主食と副食で調整となるのですが、実質、主食のところを約１０円下げ、副食は据え置いた金額で献立を作成しようと思っています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 （なし）

岡田教育長 今年度は、２０円・３０円の増加分を補助で対応しているけれども、令和６年度からはそれができなくなるから値上がりするということですね。小学校・中学校で言うと、月でどれくらい上がるのですか。

宮所長 月約２０食ぐらいだと思うので、小学校であれば２０円を２０食分で４００円、中学校は６００円ぐらいになると思います。

岡田教育長 今は１月の集金は、小学校は５,０００円ぐらいですか。

宮所長 それが学校によって違うので、私の方ではわかりません。

岡田教育長 ５,０００円ぐらいですよ。それが４００円ぐらい上がるということですね。何かご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 （なし）

岡田教育長 この通知文はいつ出るのですか。

宮所長 学校の方の集金の都合があるので、実は昨日、保護者の方への文書と併せて学校長に送らせていただいています。

岡田教育長 ということは、まだ保護者の方には届いていないのですね。

宮所長 多分、来週ぐらいに届くようになると思います

岡田教育長 来週ぐらいに届くということなので、何か反響がある可能性もあるので。「値上げするのか」という意見も来ると思います。前に値上がりした時にそういうことがあったような気がする。何かあれば、またきちんと対応していきたいと思っています。

## （９）その他

### ● 小野竹喬筆「波切村」の重要文化財（美術工芸品）指定の決定について

（生涯学習課）

安東参事 嬉しいニュースが入ってきたので、私の方から１点報告をさせていただきます。午後５時から既にヤフーニュース等に出ているものですが、別葉で資料を配っています、小野竹喬の「波切村」の国の重要文化財指定の決定についてということで、竹喬美術館のチラシも挟み込んでいます。実は本日、国の文化審議会が開催されて、その議決を経て、この笠岡市に所在する美術工芸品の新指定が文部科学大臣に答申されました。すなわち、竹喬美術館が所蔵している小野竹喬の「波切村」という作品が、国の重要文

化財に指定されることが決定したというニュースです。なお、正式な指定日はこの後、7月頃に官報告示が行われて、その日が正式な指定日ということになります。本日は指定決定のニュースということで、明日の朝刊にも掲載されることになると思います。指定の内容ですが、「波切村」という一対の屏風です。相当大きな作品です。附<sup>つけたり</sup>画稿<sup>が、こう</sup>ということで、画稿は下書きで、下書きもちゃんと10枚残っていたという意味です。小野竹喬が発表したのは大正7年です。指定までの流れについては、令和5年9月に文化庁が現地調査にお越しで、現物の調査が行われました。そこから、文化庁において検討・審議を経て、本日の文化審議会の答申ということになったものです。小野竹喬の絵が重要文化財に指定されるのは、今回が初めてです。資料を開いていただいて、2ページ目をご覧いただきたいのですが、笠岡市においては国指定の重要文化財の絵画ということで、仏画が2件これまでに指定がなされています。鎌倉時代、あるいは南北朝時代の仏画なのですが、近代の絵画が重要文化財に指定されるというケースは、笠岡市にとっては今回が初めてです。なお、現物なのですが、現在重要文化財の審査のために東京に貸し出して、それが帰って来るのが5月の下旬という予定です。帰って来ましたら、笠岡市立竹喬美術館の「国画創作協会の画家たち」ということで、明日から始まるこの展示会の後期展示、5月25日から後期展示が始まりますので、そこで現物を初公開するという予定にしています。実は、この展示のチラシに載っていますのが竹喬の「波切村」です。上下2段になっていますけれども、三重県の波切の漁村ですが、上が夕方、下が朝の景色です。移りゆく日光の加減を反映して、影のあり方とかも違ってはいますが、現物はもっと美しく克明に描かれていますので、是非竹喬美術館で内容をご覧いただきたいと思います。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 これは明日から始まるのですが、明日は前期なので「波切村」はないので、一応チラシにも小さく書いているのです。明日は来られた方が、これを楽しみに来る人がいるから、よく分かるようにはしていただいたのですかね。

安東参事 そのように聞いています。

岡田教育長 ヤフーニュースを聞いた人がいたら、これを楽しみに来たら、ここに書いてあるものは小さすぎて読めないですね。是非委員の皆様も、展覧会にお越しいただけたらありがたいです。よろしいですか。

教育委員 (なし)

● 学校給食週間の残食率について（給食センター）

宮所長 資料協8-2をご覧ください。こちらの方は、毎年、1月24日から30日までが学校給食週間になっていますが、この時の残食率について調査したものです。お手元の方に2色刷りで、A4横の表があるかと思いますが、昨年度と同様な形で数字を出しています。本来、残食率で委員会の方に提示させていただいているものは、提供しているものからの残食の割合なのですが、この1週間だけは実質食べたものがどのくらいかということで、当日休んでいるお子さんが多ければ当然残食が増える訳で、その部分を調整して、手元で計算し直して出しています。ですから、その日に食べるであろう子ども達の数をもって、残食を計算しました。昨年と比べて一目瞭然ですが、大体下がっています。特に0という、ほとんど完食という学校もあります。この給食週間中のメニューとは、基本メニューを大体揃えています。和食献立であったり、しっかり栄養を取ってもらう、噛んでしっかり食べてもらうというようなものをあえて献立に入れています。その中でも、これぐらいの残食で終わっているというのは、もちろん学校の先生方、それから給食委員会等での子どもの関心の高さというものもあって、特にその週間は頑張って残食を減らすように努めていただいているようにも思います。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 （なし）

岡田教育長 大島小・大島中は、これまでもずっと多かったのですか。

宮所長 大島小・中は、私が感じる限り今年度は残食が多いです。

岡田教育長 それは何故なのですか。

宮所長 直接学校に伺った時は結構食べていたようには感じたのですが、食缶で戻ってくるとこういう状況です。

岡田教育長 何か学校教育課の方で分かることはありますか。例えば、心配しているのは食べる時間が他に比べて短いということはないですか。

後藤参事 この1月の24日から31日で、インフルエンザとかが流行っていませんでしたか。

宮所長 それは欠席者全部引いた特別に調整した数字です。本来はそういう調整はしないのですが、この週間だけ調整しています。

岡田教育長 去年よりは改善されているようです。けれども、大島小はダントツで高いです。例えば、城見小は、今年は半減ぐらいなのです。分かりませんが、食べる時間がもしもここだけ短かったら、それはいくら頑張っても改善されないのでは、確認しておいていただけたらと思います。

宮所長 時間に関しては、次のページになるのですが、1月に出したアンケート

結果をそのまま説明させていただきます。令和5年度の学校給食アンケートということで、6年1月に、学校給食週間に合わせて実施したアンケートになります。小学生1,775人、それから中学生897人、合計で2,667人ということで、各児童生徒にアンケートを書いて出していただいたものを、集計ができたので、出させていただきます。この中で質問として、「給食を楽しみにしていますか」ということで、1番・2番の「楽しみにしている」のは9割、次に「給食は美味しいですか」ということも、やはり1番・2番の「とても美味しい」・「美味しい」で、大体9割、95%近くまで「美味しい」と言ってもらっています。その次の質問3-1のところですが、これは個々の学校で確認しなければいけないのかもしれないのですが、小学校の方は大体11分から20分ぐらいの間で、大体7割の学校でそのように対応していただいているようです。中学校においても、その時間帯で7割ですが、小学校の方は、「それでは少し短い」というのが質問の3-2に入るのですけれども、短いと思っている子が約2割強です。中学校の方も、短いと思っている子が3割強あるということは、もちろん食べている子が半数以上、ちょうど良いということで食べているのですが、もしかしたら、短いと感じている子もいるのではないかと思います。その中に大島の子がいるかどうか分からないのですが、それはここのアンケートを見れば具体は分かると思います。

岡田教育長 まず各学校で、給食時間は時程に入っていると言います。時程は、すぐ取り寄せれば分かるので、時程の中でとっている時間はすぐにチェックできます。ただそれが現実として、その部分がちゃんと給食に使われているかどうかですね。つまり逆に言うと、準備が、例えばガラガラしたら長くなります。そうすると食べる時間が短くなるとか、決まっているけれども早めに終わっているとかはないですか。「少し短い」・「短すぎる」が、中学校が合計で40%ぐらいいます。

後藤参事 私が現場にいた時は15分を目指してやっていたのですが、4時間目が、例えば移動教室で理科の教室へ行ったりとか、体育が時間いっぱいまでやっていると、着替えてから行くとかいうことになると、その時は本当に食べる時間も少なくなっていて、いつも苦情を言っていました。

岡田教育長 小学校では、例えば、低学年の体育だったら時間がかかるので、低学年については体育は4校時目に入れないというのが、職員会議で提出されるので、学校全体で統一してする訳です。だから、そういう風にもう少し細かく、時間を客観的に見るというのは必要かなと思っています。やはり、何か大島中が継続的に残食量が多いというのがすごく気になります。ここはもう一歩深く分析をしていただけたらありがたいですので、その辺は次

年度に向けてお願いします。

宮所長

次にアンケートの質問4ですが、給食の残食の関係に関わってくるのですけれども、「量はどうか」ということで同じようにアンケートを採っています。大体6割の子は「ちょうど良い」とは言っているのですが、やはり少し多いという子が3割ぐらい、4分の1ぐらいということになります。それで、その次の質問として、食べる量は、同じように配っていると思うのですが、みんなと同じように食べているかというのは約半数、その中で少なく食べているというのは、多分返しているか少し減らしているのだと思うのですが、そういう子もいれば、反対にその子の分を食べるぐらいの割合の子ども達が食べていると、全体的にはそれでバランスが取れていれば一番良いのですが、やはり学校によってはその部分が多かったり少なかったりということで、残食に影響が及んでいるかと思います。それから、献立についてのアンケートも併せてさせていただいています。1年から3年生までは単品でアンケートを採りました。主食として、ご飯では何が好きかで、主な献立で出てくる色々なご飯の中で、意外にもわかめご飯というシンプルなご飯が好きな子が多いようです。反対に、主菜の方は揚げ物であったり、肉、特にチキンが好きという子が圧倒的に多かったです。それから副菜については噛んで食べるような、かりぼり和えとかはりはり漬けとかというよりも、ポテトサラダとかツナのサラダみたいな方が好きなようです。汁・スープに関して言えば、コーンポタージュ、野菜がメインになるレタススープとかはあまり好きではないようです。デザート・フルーツについては、好き嫌いがそれぞれ散らばっているように思いました。これが小学校の低学年のところのアンケートで、中学年と中学生については、もう少し献立がしっかりしたものでアンケートを採ってきました。ここでは和食献立ということで、実際に給食で出たものを、残食が結構ある日を五つ出してみました。その中で言えば、1,164人という数字が出ましたが、豚丼の具をご飯に乗せて、野菜の味噌汁であればまだ食べられるということだと思います。それから次のページ、洋食になると、同じように洋食の中でも残食が多いものをピックアップしたのですが、その中で言えばカレーピラフ、若鶏肉のガーリック、それからツナとチーズのサラダ、コンソメスープという取り合わせ、これにこの日はデザートが入っているので、それを入れてのメニューの方が好きという結果でした。次に中華・韓国風の献立というものも結構出ているので、その中で言えば、中華麺・ラーメンとかの方が好きな子どもが多いようです。以上のように、献立の具体的なものは栄養教諭の方がコメントを入れているので、またご覧いただければと思います。アンケートを結構細かく採らせて

いただいて、傾向と対策を今後も掴んでいながら、子ども達に好きになっていただく給食、美味しいと思っていただく給食を目指して、残食の方でもできるだけ減らせるように努めていきたいと思います。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

### ● 卒業式・入学式等の予定について（学校教育課）

榎野課長 今日配付の資料「卒業式・入学式等の予定」をご覧ください。令和6年度ですが、中学校の卒業式を3月14日に設定させていただきたいと思っています。これは理由として、県立高校の一般入試の日程が先日公表されて、入試が3月11日（火）と12日（水）ということで公表されました。その関係で、火・水と入試で、木曜日が入試の翌日、すなわち卒業式の前日、そして金曜日が卒業式という設定にさせていただきたいと思っています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からありますか。

教育委員 (なし)

### ● 笠岡市立竹喬美術館館長の内定について（生涯学習課）

石井課長 お手元に配布の笠岡市立竹喬美術館館長の資料をご覧ください。1月の教育委員会定例会で、竹喬美術館の館長の公募について説明をさせていただいたので、その採用経過について報告します。竹喬美術館の現館長の今年度末での任期満了に伴い、公募による館長の配置・採用を4月1日付で行おうとするものです。これまでの採用の状況及び経過を説明すると、募集を1月30日から2月19日まで行い、10名の応募がありました。職歴等、非常にバラエティに富んだ方々が、市外でいえば東京から、近い所で広島まで、幅広い方の応募がありました。その後2名の辞退がありましたが、2月25日に8名を対象に書類及び面接での試験を行い、現在内定中です。なお、当該館長は課長補佐級の笠岡市任期付職員として採用するもので、人事の具体の内示等の公表については、4月1日付の採用等の笠岡市職員と同時期を考えているもので、その日が予定では3月22日と聞いているので、その日に具体的に名前等の公表となります。

### ● 陶山公民館の主事内定について（生涯学習課）

石井課長 2月の教育委員会定例会で、陶山公民館の主事が館長になるので、その館の主事等の代職はどうなるのかというようなことがあり、その後の経過を報告します。3月1日付で陶山公民館長にその当時の主事が着任をして

いて、主事の対応をとということでしたが、その後地元の公民館職員等の候補者推薦委員会を経て、主事となる候補者の推薦がありました。その方については、今は別の所で勤務を持たれているので、４月１日からの採用予定という運びになりました。については、３月１日から３月３１日までの間は主事がいらない状態ではありますが、現公民館長で前は主事ということもあったので、館長兼主事ということで勤務をしてもらうということ、それから給与面等の処遇については、会計年度任用職員である主事と同等の処遇・待遇で雇用するということにしています。

#### ● 井笠鉄道記念館まつりについて（生涯学習課）

石井課長 お手元に配布の井笠鉄道記念館まつりのチラシをご覧ください。この日曜日、３月１７日に開催の行事で、この井笠鉄道記念館は、昭和５６年に井笠鉄道株式会社によって設置されたものです。平成２５年に、地域の交通史に係る産業遺産を保存・公開するために、笠岡市がそれを購入して、平成２６年３月３０日に開館した施設です。施設は現在指定管理を行っていて、地元新山地区自治会に委託をしています。記念館まつり自体はコロナ禍の中止があり、今回、第８回を迎えますが、今回の祭りは開館１０周年ということで銘打って実施されるものです。裏面に、笠岡市からは先着１００名限定の記念グッズということで、マスキングテープをこの度生涯学習課で作成したので、限定１００名、それから、オリジナルのクリアファイルを１００名に当日配布をするといったような企画も考えています。

#### ● 大井南グラウンドの体育施設条例について（スポーツ推進課）

土屋課長 １２月議会で、大井南グラウンドの体育施設条例に追加する条例案を上程していて、継続審議になっていました。今回、３月議会の総務文教委員会で継続審議を受けたのですが、「利用者の方に意見を聞きなさい」、「事前に整備できることを色々検討しなさい」等ということで、利用者の方に話を聞いたり、できることを考えたところ、水溜りができたり土が掘れた時に補充する土を何年も入れていなかったということなので、グラウンドに使う石の少ない真砂土を２トン搬入しました。また、それを運ぶスコップであるとか、そういうものは補充したという説明をさせていただいたのですが、議員の方から、前から言っているのだけれども、トイレの整備がまだできていないため、もう少し見守りたいということで、総務文教委員会の中では継続という結果をいただきました。最終的には３月２２日の議会最終日で決まることになりましたが、今のところは継続審議という形になっているので、報告させていただきます。

岡田教育長 委員の皆様からは何かありますか。

東山委員 先日小学校に行ったら、ちょうど給食の時間で、聞いていると、給食委員が放送をすごく頑張られて、皆一生懸命食べているのです。原稿も給食センターで考えてくださっていて、少し難しい言葉もあるけれども一生懸命読んでいて、「この食材は」等言うので、すごく詳しく説明されていて、そういうのもすごく食育に繋がっているなと思って、ありがたく思いました。

岡田教育長 その他よろしいですか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 それでは、これをもちまして、令和6年3月教育委員会定例会を閉会します。ありがとうございました。